

大正期の音楽誌における西洋クラシック音楽の作曲家 に関する記事目録 (その2)

松村 洋一郎*

Biographical Information of Western Classical Music Composers on Japanese Music Journals During the Taisho Period (1912-1926) : A List of Articles (Volume 2)

Yoichiro MATSUMURA

筆者は、明治・大正期の様々な雑誌に掲載された作曲家の伝記情報に関する調査を行っており、一部は発表済である（松村 2016, 2017a, 2017b, 2018a）。本稿もその調査の一貫であり、大正期の音楽誌に掲載された、作曲家の伝記情報に関する記事をまとめたものである。本稿では、東京音楽学校学友会などから発行されていた『音楽』誌を対象とし、同誌に含まれる対象記事のほとんどを収録した⁽¹⁾。なお、本調査の背景のひとつには、音楽誌の記事情報の整理・発表が遅れている現状があるが、具体的には、別稿の紹介記事（松村 2018b）を参照されたい。

現在、大正期の雑誌の記事情報に関する最も網羅的なデータベースとして、「雑誌記事索引集成データベース」（皓星社）があるが、大正期の『音楽』誌の記事情報は、『大正－昭和 25 年期における日伊交流』（日伊協会 1991）を出典とする 30 件が収録されているのみであった（2018 年 5 月 7 日現在）。本稿の刊行以降、情報提供を行う予定である。

目録 大正期の音楽誌に掲載された西洋芸術音楽の作曲家に関する記事 (その2)

- ・本目録は、大正期の音楽誌に掲載された西洋芸術音楽の作曲家に関する記事のうち、本稿執筆の時点で現物を確認した記事を一覧にしたものである。ここでは、『クラシック音楽作品名辞典 第3版』（井上 2009）に掲載されている人物を「作曲家」として扱った。
- ・調査対象の誌名、巻号は以下の通り。採録対象の記事を含まない場合も調査したものは全て誌名、巻号を挙げてある。1行目に刊行時期および巻号を、その下に調査した巻号を記した。
- ・紙数の都合上、そのほかの編集方針は既発表の目録と同様であるため割愛した。詳しくは別稿（松村 2018a）を参照のこと。また、同じ理由により、連載記事に関してはまとめて記した。

・音楽⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾ [1巻]1号 ([明43.1]) -13巻12号 (大11.12) ;1号 (大12.3) -[20] (昭
15.1) 東京:共益商社楽器店→目黒書店→東京音楽学校学友会
3 (8-12) [1912]-13 [1922] ;1[1923]-6[1926]

■パレストリーナ, ジョヴァンニ・ピエルルイーダPalestrina, Giovanni Pierluigi da
(1525/26-1594)

「パレストリーナ——H. Riemann: Musiklexikon 抄訳」松岡登志・井川富子 [訳] 『音
楽』第5巻第12号 (大正3年12月), 80-83頁.

田中久子・石原和子「デョヴァンニ ピエルルイーダと其作品全集 (一)」『音楽』第5巻
第12号 (大正3年12月), 84-102頁.

「パレストリーナ及びリヒャルド シュトラウス参考書」『音楽』第5巻第12号 (大正3
年12月), 103-104頁.

小泉洽「芸術史上より見たるパレストリーナよりベートーヴェンに及ぶ」『音楽』第12巻
第10号 (大正10年10月), 10-20頁.⁽⁵⁾

■バッハ, ヨハン・ゼバスティアンBach, Johann Sebastian (1685-1750)

「バッハの二短調司伴奏——Beatrice Harraden」牛山充 [訳] 『音楽』第4巻第7号 (大
正2年7月), 37-49頁.

「近代人としてのヨハン セバスチアン バッハ——フィリップ クラップ」二見孝平訳『音
楽』第7巻第11号 (大正5年11月), 17-24頁./「近代人としてのヨハン セバスチアン バッ
ハ——フィリップ クラップ」二見孝平訳『音楽』第7巻第12号 (大正5年12月), 42-48頁./
「近代人としてのヨハン セバスチアン バッハ (三)」二見孝平訳『音楽』第8巻第1
号 (大正6年1月), 21-25頁./「近代人としてのヨハン セバスチアン バッハ (四) —
—フィリップ クラップ」二見孝平訳『音楽』第8巻第2号 (大正6年2月), 13-19頁./「近
代人としてのヨハン セバスチアン バッハ (五) ——フィリップ クラップ」二見孝
平訳『音楽』第8巻第3号 (大正6年3月), 5-9頁.

■グルック, クリストフ・ヴィリバルトGluck, Christoph Willibald (1714-1787)

牛山充「グルックの改革——エルソン氏著『批判的歌劇史』より」『音楽』第5巻第7号 (大
正3年7月), 2-21頁.

牛山充「クリストフ ヴィリバルト グルック」『音楽』第5巻第7号 (大正3年7月), 22-73頁.

牛山充「歌劇物語 四、『オルフェーオとユーリディーチェ』(四幕物) ——グルック作曲」
『音楽』第5巻第7号 (大正3年7月), 改55-改68頁.

花法師「『オルフェーオ』の午後」『音楽』第7巻第7号 (大正5年7月), 79-81頁.

■サリエーリ, アントーニオSalieri, Antonio (1750-1825)

プーシユキン「モツァールトとサリエーリ」森本覚丹訳『音楽』第12巻第12号 (大正
10年12月), 22-30頁.

■モーツァルト, ヴォルフガング・アマデーウスMozart, Wolfgang Amadeus (1756-91)

牛山充「歌劇『霊笛』」『音楽』第4巻第7号(大正2年7月),20-32頁.

牛山充「歌劇物語十『フイーガロの婚礼』(四幕物喜歌劇)——モーツァルト作曲」『音楽』第6巻第10号(大正4年10月),改183-改226頁.

弘田竜太郎「モーツァルトのソナタ(一)」『音楽』第9巻第9号(大正7年9月),1-6頁./

弘田竜太郎「モーツァルトのソナタ(一)[ママ]」『音楽』第9巻第10号(大正7年10月),1-4頁.

プーシユキン「モツアールトとサリエーリ」森本覚丹訳『音楽』第12巻第12号(大正10年12月),22-30頁.

乙骨三郎「モツアールトのレクイエム創作の由来——巻頭口絵参照」『音楽』第6号(大正15年12月),5-8頁.

■ケルビーニ, ルイージ Cherubini, Luigi (1760-1842)

牛山充「ケルビーニ」『音楽』第4巻第6号(大正2年6月),23-30頁.

■ベートーヴェン, ルートヴィヒ・ヴァン Beethoven, Ludwig van (1770-1827)

牛山充「名人名曲(三)——ベートーヴンの『フィデリオ』」『音楽』第3巻第11号(大正元年11月),4-13頁.

黒田誠「『フィデリオ』のレオノーレと『ローヘングリン』のエルザ——von Pfordten,

Musikalische Essays, S. 173 ff. 梗概」『音楽』第4巻第4号(大正2年4月),22-32頁./

黒田誠「『フィデリオ』のレオノーレと『ローヘングリン』のエルザ 其二」『音楽』第4巻第5号(大正2年5月),38-50頁.

小田島次郎「ワグナーの観たるベートーエ`ン」『音楽』第5巻第2号(大正3年2月),31-35頁./

小田島次郎「ワグナーの見たるベートーエ`ン(二)」『音楽』第5巻第4号(大正3年4月),28-34頁.

牛山充「ベートーエ`ン論(一)——シモンズより」『音楽』第5巻第3号(大正3年3月),13-28

頁./牛山充「ベートーエ`ン論(二)」『音楽』第5巻第5号(大正3年5月),27-38頁.

猪瀬久三「ベートーヴェンのピアノ演奏と其教授」『音楽』第6巻第7号(大正4年7月),14-19頁.

「頓智と滑稽のベートーヴン——ヂェー・シー・ハドゥン」牛山充[訳]『音楽』第6巻第9号(大正4年9月),24-31頁.

「楽聖ベートーエ`ンの一日(一)——メイバイロン」近衛秀麿訳『音楽』第7巻第7号(大

正5年7月),35-38頁./「楽聖ベートーエ`ンの一日(二)——メイバイロン」近衛秀

麿訳『音楽』第7巻第10号(大正5年10月),28-34頁./「楽聖ベートーエ`ンの一日(四)

[ママ]——メイバイロン」近衛秀麿訳『音楽』第7巻第11号(大正5年11月),49-53頁./

「楽聖ベートーエ`ンの一日(四)——メイバイロン」近衛秀麿訳『音楽』第7巻第

12号(大正5年12月),95-97頁./「楽聖ベートーエ`ンの一日(五)——メイバイロン」

近衛秀麿訳『音楽』第8巻第1号(大正6年1月),19-21頁./メイバイロン「楽聖ベートー

エ`ンの一日(六)」近衛秀麿訳『音楽』第8巻第4号(大正6年4月),40-42頁.

中田章「ソナタ形式を述べて Moon-light Sonataの内容研究に及ぶ (一)」『音楽』第8巻第7号 (大正6年7月), 1-7頁./中田章「ソナタ形式を述べて Moon-Light Sonataの内容研究に及ぶ (二)」『音楽』第8巻第8号 (大正6年8月), 9-21頁.

牛山充「ルードウィック ワンベートーエン——『ベートーエンの午後』曲目解説」『音楽』第9巻第12号 (大正7年12月), 40-63頁.

エルンスト エルタアライン「ベートーエンのソナタの研究 (一)」柿沼太郎訳『音楽』第10巻第4号 (大正8年4月), 1-13頁./エルタアライン「ベートーエンのソナタの研究 (二)」柿沼太郎訳『音楽』第10巻第5号 (大正8年5月), 20-29頁./エルンスト エルタアライン「ベートーエンのソナタの研究 (三)」柿沼太郎 [訳]『音楽』第10巻第6号 (大正8年6月), 1-9頁./エルタアライン「ベートーエンのソナタの研究 (四)」柿沼太郎 [訳]『音楽』第10巻第10号 (大正8年10月), 1-11頁./エルタアライン「ベートーエンのソナタの研究 (五)」柿沼太郎 [訳]『音楽』第11巻第1号 (大正9年1月), 41-51頁./エルタアライン「ベートーエンのソナタの研究 (六)」柿沼太郎 [訳]『音楽』第11巻第3号 (大正9年3月), 12-23頁.

ルイズ ノール「ベートーエンの生涯 (一)」柿沼太郎訳『音楽』第10巻第5号 (大正8年5月), 1-12頁./ノール「ベートーエンの生涯 (二)」柿沼太郎 [訳]『音楽』第10巻第6号 (大正8年6月), 16-27頁./ノール「ベートーエンの生涯 (三)」柿沼太郎 [訳]『音楽』第10巻第7号 (大正8年7月), 10-21頁./ノール「ベートーエンの生涯 (四)」柿沼太郎 [訳]『音楽』第10巻第8号 (大正8年8月), 1-13頁./ノール「ベートーエンの生涯 (五)」柿沼太郎 [訳]『音楽』第10巻第9号 (大正8年9月), 1-10頁./ノール「ベートーエンの生涯 (六)」柿沼太郎 [訳]『音楽』第10巻第10号 (大正8年10月), 12-22頁./ノール「ベートーエンの生涯 (七)」柿沼太郎 [訳]『音楽』第11巻第1号 (大正9年1月), 24-34頁./ノール「ベートーエンの生涯 (八)」柿沼太郎 [訳]『音楽』第11巻第2号 (大正9年2月), 22-35頁./ノール「ベートーエンの生涯 (九)」柿沼太郎 [訳]『音楽』第11巻第6号 (大正9年6月), 22-33頁./ノール「ベートーエンの生涯 (十)」柿沼太郎 [訳]『音楽』第11巻第12号 (大正9年12月), 1-9頁.

小泉洽「ベートーエンの贖耳とその他」『音楽』第11巻第12号 (大正9年12月), 10-18頁.
乙骨三郎「音楽学校秋季大演奏会曲目梗概」『音楽』第12巻第1号 (大正10年1月), 44-56頁.⁽⁶⁾

前田春声「ベートーエン音楽頌歌——彼の全作品の想を持つて殊にソナタ op53 番の想に溢れて」『音楽』第12巻第3号 (大正10年3月), 21-23頁.

二見孝平「セーヤーと其のベートウエン伝及其の英文の版本に就いて」『音楽』第13巻第3号 (大正11年3月), 1-9頁.

乙骨三郎「本校—昨年ベートウヴェン記念演奏の批評」『音楽』第1号 (大正12年3月), 24-26頁.

■シュポーア, ルーイ Spohr, Louis (1784-1859)

牛山充「グリーヒとガーデとシュポーアとマッスナー」『音楽』第3巻第12号（大正元年12月）,26-38頁.

■マイヤベアー, ジャーコモ Meyerbeer, Giacomo (1791-1864)

牛山充「歌劇物語七『プロフェット』(五幕物大歌劇)——マイヤーベアー作曲」『音楽』第5巻第10号（大正3年10月）,改113-改130頁.

■ロッシーニ, ジョアキーノ Rossini, Gioachino (1792-1868)

「名人名曲(四)——ロシーニの『セミラミーデ』」『音楽』第3巻第12号（大正元年12月）,19-24頁.

佐久間孝夫「ロッシーニ(一)」『音楽』第4巻第6号（大正2年6月）,19-23頁./佐久間孝夫「ロッシーニ(二)」『音楽』第4巻第7号（大正2年7月）,16-20頁./佐久間孝夫「ロッシーニ(三)」『音楽』第4巻第8号（大正2年8月）,40-45頁./佐久間孝夫「ロッシーニ(四)」『音楽』第4巻第11号（大正2年11月）,41-44頁.

牛山充「歌劇物語三、『セミラミーデ』(二幕物悲歌劇)——ロッシーニ作曲」『音楽』第5巻第6号（大正3年6月）,改39-改54頁.

牛山充「歌劇物語九『シキーリアの床屋』(二幕物喜歌劇)——ロッシーニ作曲」『音楽』第6巻第9号（大正4年9月）,改151-改182頁.

■シューベルト, フランツ Schubert, Franz (1797-1828)

乙骨三郎「シューベルトの短歌」『音楽』第9巻第1号（大正7年1月）,10-17頁.

■グリнка, ミハイル Glinka, Mikhail (1804-1857)

相沢晃「露西亜音楽の父グリнка」『音楽』第12巻第8号（大正10年8月）,8-12頁.

■ショパン, フリデリク Chopin, Fryderyk (1810-49)

大田黒元雄「ショパンの数曲」『音楽』第5巻第4号（大正3年4月）,55-62頁.

大田黒元雄「ショパン六十曲(一)」『音楽』第5巻第9号（大正3年9月）,53-63頁./大田黒元雄「ショパン六十曲(二)」『音楽』第5巻第10号（大正3年10月）,28-38頁./大田黒元雄「ショパン六十曲(三)」『音楽』第5巻第11号（大正3年11月）,56-60頁.

大田黒元雄「グリヤソンの見たるショパンとリスト」『音楽』第6巻第3号（大正4年3月）,2-4頁.

牛山充「ソナータ形式と対照して観たるショパンの形式」『音楽』第6巻第6号（大正4年6月）,2-5頁.

田村生「ショパン研究(二)——ショルツ教授のショパン アーベントの為に」『音楽』第6巻第10号（大正4年10月）,改1-改8頁./田村寛貞「ショパン研究(三)」『音楽』第6巻第11号（大正4年11月）,改9-改18頁.⁽⁷⁾

大田黒元雄「ショパン——アーベントの後に」『音楽』第6巻第11号（大正4年11月）,46-49頁.

田村生「ショパンの Nocturne (G dur) に就て——小倉アーベントの為に」『音楽』第7巻第5号（大正5年5月）,69-71頁.

「ショパンの思ひ出」二見孝平 [訳] 『音楽』 第8巻第12号 (大正6年12月), 5-9頁.
兼常清佐「ショパンの誕辰記念に」『音楽』 第10巻第3号 (大正8年3月), 25-27頁.
パーリ「洋琴曲解説 (二)」牛山充 [訳] 『音楽』 第10巻第3号 (大正8年3月), 28-33頁.⁽⁸⁾

「ショパンの手簡 (一)」牛山充 [訳] 『音楽』 第12巻第6号 (大正10年6月), 8-11頁.
「Chopinの日記」TS生 [訳] 『音楽』 第12巻第8号 (大正10年8月), 13-29頁.
ショパン「『方法中の方法』に就て」牛山充 [訳] 『音楽』 第13巻第8号 (大正11年8月), 10-12頁.

クレツインスキイ「ショパンの大作」牛山充 [訳] 『音楽』 第13巻第8号 (大正11年8月), 12-15頁.

■トマ, アンブローズ Thomas, Ambroise (1811-1886)

青山波子「歌劇『ミニヨン』」『音楽』 第5巻第1号 (大正3年1月), 49-57頁.

■リスト, フランツ Liszt, Franz (1811-86)

野々花一番「『ワグナー』の『ファウスト、オーヴァーチュア』に関する『ワグナー』と『リスト』との文通」『音楽』 第4巻第5号 (大正2年5月), 81-84頁.

大田黒元雄「グリヤソンの見たるショパンとリスト」『音楽』 第6巻第3号 (大正4年3月), 2-4頁.

リスト「タッソー 悲哀と勝利——リストのシムフォニー詩」弘田竜太郎訳『音楽』 第6巻第6号 (大正4年6月), 57-59頁.

Edwin Hughes「歌曲作家としてのリスト (上)」二見孝平訳『音楽』 第9巻第2号 (大正7年2月), 7-22頁./Edwin Hughes「歌曲作家としてのリスト (下)」二見孝平訳『音楽』 第9巻第3号 (大正7年3月), 9-21頁.

■フロート, フリードリヒ Flotow, Friedrich (1812-83)

黒田誠「歌劇『マルタ』の音楽的略解」『音楽』 第4巻第10号 (大正2年10月), 59-62頁.

■ヴァーグナー, リヒャルト Wagner, Richard (1813-83)

田村寛貞「理論家としてのヴァーッハナー (三) [ママ]」『音楽』 第3巻第8号 (明治45年 [大正元年] 8月), 12頁./田村寛貞「理論家としてのヴァーッハナー (七) [ママ]」『音楽』 第3巻第12号 (大正元年12月), 7-9頁./田村寛貞「理論家としてのヴァーッハナー (八) [ママ]」『音楽』 第4巻第1号 (大正2年1月), 13-15頁./田村寛貞「理論家としてのヴァーッハナー (九) [ママ]」『音楽』 第4巻第2号 (大正2年2月), 6-8頁./田村寛貞「理論家としてのヴァーッハナー (十) [ママ]」『音楽』 第4巻第3号 (大正2年3月), 39-44頁.

「リヒャルト ヴァーッハナーの歌劇——アプソープより」牛山充 [訳] 『音楽』 第3巻第9号 (大正元年9月), 9-22頁.

M、U、生「名人名曲 (五)『デア フライゲンデ ホレンダー』」『音楽』 第4巻第2号 (大正2年2月), 24-33頁.

- 「ニーベルンゲンの指環 (一) ——Der Ring des Nibelungen-Schmitz: R. Wagner. S. 104 ff. 抄訳」田村寛貞 [訳] 『音楽』 第4巻第3号 (大正2年3月), 50-52頁。/ 「ニーベルンゲンの指環 (二)」田村寛貞 [訳] 『音楽』 第4巻第4号 (大正2年4月), 18-21頁。
多久寅・萩原英一「楽劇『パーシファル』を聴く」『音楽』 第4巻第3号 (大正2年3月), 53-59頁。
「『飛行する和蘭人』の愛——オットカア、フォン、クラフト『ワグネルの歌劇に現れたる愛』より抄訳」TH生 [訳] 『音楽』 第4巻第4号 (大正2年4月), 16-17頁。
黒田誠「『フィデリオ』のレオノーレと『ローヘングリン』のエルザ——von Pfordten, Musikalische Essays, S. 173 ff. 梗概」『音楽』 第4巻第4号 (大正2年4月), 22-32頁。/
黒田誠「『フィデリオ』のレオノーレと『ローエングリン』のエルザ 其の二」『音楽』 第4巻第5号 (大正2年5月), 38-50頁。
上野直昭「リヒャルト・ワグナーの作品」『音楽』 第4巻第5号 (大正2年5月), 6-12頁。
和辻哲郎「ワグナーの音楽劇——ニイチェの理想としての」『音楽』 第4巻第5号 (大正2年5月), 12-14頁。
小林愛雄「トリスタン物語」『音楽』 第4巻第5号 (大正2年5月), 14-16頁。
内藤濯「ワグネル音楽の第一印象」『音楽』 第4巻第5号 (大正2年5月), 16-18頁。
高安月郊「ワグネルとニイツェ」『音楽』 第4巻第5号 (大正2年5月), 18-22頁。
「シュミッツ博士の『ニーベルンゲン』論——E. Schmitz: R. Wagner. S 112-22 抄訳」
田村寛貞 [訳] 『音楽』 第4巻第5号 (大正2年5月), 22-30頁。
「ワグネル小話——フォルバツハ博士『十九世紀の独逸音楽』から抄訳」秦豊吉 [訳]
『音楽』 第4巻第5号 (大正2年5月), 30-38頁。
「『トウリスタンとイゾールデ』——Krehbiel: Studies in Wagnerian Drama 抄訳」草
川友忠 [訳] 『音楽』 第4巻第5号 (大正2年5月), 50-59頁。
「『タンホイザー』及『ローエングリン』論——H. S. Chamberlain's "Richard
Wagner" の抄訳」A、N、生 [訳] 『音楽』 第4巻第5号 (大正2年5月), 59-70頁。
藤田愛子「『リエッツィ』と『フリーゲンデホルレンダー』」『音楽』 第4巻第5号 (大
正2年5月), 70-75頁。
「ローエングリン——Lohengrin von Dr. Robert Petsch 抄訳」犬井英夫 [訳] 『音楽』
第4巻第5号 (大正2年5月), 75-80頁。
野々花一番「『ワグナー』の『ファウスト、オーヴァーチュア』に関する『ワグナー』と
『リスト』との文通」『音楽』 第4巻第5号 (大正2年5月), 81-84頁。
「リヒャード・ワグナーの埋葬 (千八百八十三年二月十八日) を憶うて——Vor
zwanzig Jahren, von Hans Pfeilschmidt 抄訳」Y. H. 生 [訳] 『音楽』 第4巻第5号 (大
正2年5月), 84-85頁。
乙骨三郎「ワグネルの生ひ立ち 二十歳まで」『音楽』 第4巻第5号 (大正2年5月), 86-92
頁。

- 牛山充「ワーグナー小伝」『音楽』第4巻第5号（大正2年5月）,92-98頁。
- 花法師「戯曲 トリスタンとイゾルデ（二幕）此の一篇を楽聖ワグネルの霊前に捧ぐ」『音楽』第4巻第5号（大正2年5月）,99-104頁。
- 田村寛貞「ワーク [クは小文字] ナー参考書に就て——Schmitz 及び Istel に由る」『音楽』第4巻第5号（大正2年5月）,105-106頁。
- 「ディマイスタージンガー（一）——E. Istel: Das Kunstwerk Richard Wagners 抄訳」JO生 [訳]『音楽』第4巻第7号（大正2年7月）,13-16頁。/「ディマイスタージンガー（二）——E. Istel: Das Kunstwerk Richard Wagners. 抄訳」JO生 [訳]『音楽』第4巻第8号（大正2年8月）,45-47頁。
- 「エールディとワーハナー——Lawrence Gilman: Phases of Modern Music」牛山充 [訳]『音楽』第4巻第12号（大正2年12月）,30-37頁。
- 小田島次郎「ワグナーの観たるベートーヴェン」『音楽』第5巻第2号（大正3年2月）,31-35頁。/小田島次郎「ワグナーの見たるベートーヴェン（二）」『音楽』第5巻第4号（大正3年4月）,28-34頁。
- 大田黒元雄「ローエングリーンとパーシファル」『音楽』第5巻第7号（大正3年7月）,86-88頁。
- ローレンス ギルマン「純正楽劇論」中根弘訳『音楽』第10巻第1号（大正8年1月）,1-8頁。
- ペーターソン・ベルゲル「ワーグナーの楽劇に於ける人生問題」二見孝平 [訳]『音楽』第10巻第12号（大正8年12月）,1-15頁。
- 音川仙三「ワグナーの芸術観に就て」『音楽』第13巻第1号（大正11年1月）,12-15頁。
- ヴェルディ, ジュゼッペVerdi, Giuseppe (1813-1901)
- 小田島次郎「エルディ小伝並に彼の歌劇——Arthur Elson: A History of Opera より」『音楽』第4巻第10号（大正2年10月）,22-28頁。
- 犬井英夫「ヂウゼッペ・エールディ——Dr. Hugo Riemann: Geschichite [ママ] der Musik seit Beethoven に依る」『音楽』第4巻第10号（大正2年10月）,29-32頁。
- 高安百合「ヴェルディー作品の概評——R. A. Streatfeild: The Opera. P. 262-76 訳述」『音楽』第4巻第10号（大正2年10月）,33-35頁。
- 藤田愛子「歌劇『エルナーニ』——Upton: The Standard Opras より」『音楽』第4巻第10号（大正2年10月）,36-38頁。
- 「歌劇『リゴレット』(RIGOLETTO) ——K. Storek: Das Opernbuch 抄訳」田内弥生 [訳]『音楽』第4巻第10号（大正2年10月）,38-40頁。
- 「歌劇『イルトゥロワトローレ』(IL TROVATORE) ——Karl Storek: Das Opernbuch 抄訳」長坂好子 [訳]『音楽』第4巻第10号（大正2年10月）,41-43頁。
- A・N生「歌劇『ラトゥラ井アータ』——H. E. KREHBIEL 氏の著書より」『音楽』第4巻第10号（大正2年10月）,44-50頁。

阿部次郎「エールディに就いて——オルカール ピーの説を抄す」『音楽』第4巻第10号(大正2年10月),51-53頁.

黒田誠「エールディのレクイエム」『音楽』第4巻第10号(大正2年10月),53-54頁.

「エールディがフィリッピに送れる四通の書翰——千九百二年発行雑誌 Die Musik 中の Ernst Stier 訳 Vier Briefe Verdis an Filippo Filippi 抄訳」弘田竜太郎 [訳]『音楽』第4巻第10号(大正2年10月),54-57頁.

「エールディとワーハナー——Lawrence Gilman: Phases of Modern Music」牛山充 [訳]『音楽』第4巻第12号(大正2年12月),30-37頁.

「百年祭の遠景中に現はれたエールディ——ハーバート エフ、バイザー」牛山充 [訳]『音楽』第4巻第12号(大正2年12月),45-48頁.

「ブセットにエールディの遺蹟を訪ふ——H. O. Osgood」九一生 [訳]『音楽』第4巻第12号(大正2年12月),48-51頁.

「ヂュウゼツペ エールディの事ども——Maurice Halperson」桑原四賀 [訳]『音楽』第4巻第12号(大正2年12月),51-52頁.

牛山充「歌劇物語一、『アイダ』(四幕物)——エールディ作曲」『音楽』第5巻第3号(大正3年3月),改1-改18頁.

アルガアナン ジョン ブレナン「ヂュゼツペ エールディ」二見孝平 [訳]『音楽』第8巻第4号(大正6年4月),8-27頁./二見孝平「ヂュゼツペ エールディ(中)」『音楽』第8巻第5号(大正6年5月),14-32頁./二見孝平「ヂュゼツペ エールディ(下の巻)」『音楽』第8巻第6号(大正6年6月),33-39頁./二見孝平「ヂュゼツペ エールディ(下)」『音楽』第8巻第7号(大正6年7月),18-28頁.

■ゲーゼ, ニルス Gade, Niels (1817-1890)

牛山充「グリーヒとガーデとシュポーアとマッスナー」『音楽』第3巻第12号(大正元年12月),26-38頁.

牛山充「ガーデとその二大シムフォニー」『音楽』第4巻第2号(大正2年2月),9-14頁.

■グノー, シャルル=フランソワ Gounod, Charles-François (1818-93)

黒田誠「ゲーテの『ファウスト』とグノーの『マルガレーテ』——von Pfordten, Musikalische Essays, Neue Folge S. 145 ff. 梗概」『音楽』第4巻第8号(大正2年8月),19-30頁./黒田誠「ゲーテの『ファウスト』とグノーの『マルガレーテ』(二)——V. Pfordten, Musikalische Essays」『音楽』第4巻第9号(大正2年9月),18-24頁./黒田誠「ローエングリーンンの『エルザ』[ママ]とグノーの『マルガレーテ』(三)」『音楽』第4巻第11号(大正2年11月),34-40頁./黒田誠「ゲーテのファウストとグノーのマルガレーテ(四)」『音楽』第4巻第12号(大正2年12月),19-30頁.

■シューマン, クララ Schumann, Clara (1819-1896)

「ブラームスとクララ、シューマン——フェルディナンドシューマン」二見孝平訳『音楽』第8巻第1号(大正6年1月),15-18頁./「ブラームスとクララシューマン(二)——フェ

ルディナント シューマン」二見孝平訳『音楽』第8巻第3号(大正6年3月),26-34頁.

■ルビンシテイン, アントンRubinstein, Anton (1829-1894)

愛子「アントンルービンシュタインの逸話」『音楽』第4巻第9号(大正2年9月),33-35頁.
ホフマン「洋琴演奏法(六)」牛山充[訳]『音楽』第9巻第4号(大正7年4月),49-59頁.⁽⁹⁾

■ゴルトマルク, カーロイGoldmark, Károly (1830-1915)

「カール ゴルトマークを想ふ——ヘレンワレー」牛山充[訳]『音楽』第6巻第4号(大正4年4月),36-40頁.

■ブラームス, ヨハネスBrahms, Johannes (1833-97)

「ヨハンネス、ブラームス(一)——Richard von Perger: Brahms 抄訳」弘田竜太郎[訳]『音楽』第4巻第6号(大正2年6月),15-19頁./「ヨハンネス、ブラームス(二)——Richard von Perger: Brahms 抄訳」高安百合[訳]『音楽』第4巻第7号(大正2年7月),32-36頁.

弘田竜太郎「ブラームス」『音楽』第7巻第6号(大正5年6月),9-10頁./弘田竜太郎「ブラームス(二)」『音楽』第7巻第7号(大正5年7月),38-42頁./弘田竜太郎「ヨハンネス ブラームス(三)」『音楽』第7巻第8号(大正5年8月),27-32頁./弘田竜太郎「ヨハンネス ブラームス(四)」『音楽』第7巻第9号(大正5年9月),27-33頁./ベルガー原著「ヨハンネス ブラームス(五)」弘田竜太郎[訳]『音楽』第7巻第10号(大正5年10月),22-27頁./ベルガー原著「ヨハンネス ブラームス(六)」弘田竜太郎[訳]『音楽』第7巻第11号(大正5年11月),45-49頁./弘田竜太郎「ヨハンネス ブラームス(七)」『音楽』第7巻第12号(大正5年12月),53-58頁./ベルガー原著「ヨハンネス ブラームス(八)」弘田竜太郎[訳]『音楽』第8巻第1号(大正6年1月),25-28頁./ベルガー原著「ヨハンネス ブラームス(九)」弘田竜太郎[訳]『音楽』第8巻第2号(大正6年2月),23-29頁./ベルガー原著「ヨハンネス ブラームス(十)」弘田竜太郎[訳]『音楽』第8巻第3号(大正6年3月),34-41頁./ベルガー原著「ヨハンネス ブラームス(十一)」弘田竜太郎[訳]『音楽』第8巻第4号(大正6年4月),34-39頁./ベルガー原著「ヨハンネス ブラームス(十二)」弘田竜太郎[訳]『音楽』第8巻第5号(大正6年5月),51-65頁.

「ブラームスとクラ、シューマン——フェルディナント シューマン」二見孝平訳『音楽』第8巻第1号(大正6年1月),15-18頁./「ブラームスとクララ シューマン(二)——フェルディナント シューマン」二見孝平訳『音楽』第8巻第3号(大正6年3月),26-34頁.

■ドリーブ, レオDelibes, Léo (1836-1891)

牛山充「歌劇物語 二、『ラクメ』(三幕物)——デーリーブ作曲」『音楽』第5巻第5号(大正3年5月),改19-改38頁.

■ビゼー, ジョルジュBizet, Georges (1838-75)

「名人名曲(一) ビゼーの『カルメン』」『音楽』第3巻第9号(大正元年9月),37-41頁.

■ムソルグスキー, モデストMusorgsky, Modest (1839-81)

大田黒元雄「ムースルグスキイの『ボリスゴドゥノフ』」『音楽』第5巻第9号（大正3年9月）,74-81頁。

大田黒元雄「ムースルグスキーの歌」『音楽』第7巻第7号（大正5年7月）,27-28頁。

牛山充「ムースルグスキーと『ボリスゴドゥノフ』」『音楽』第10巻第9号（大正8年9月）,24-30頁。

牛山充「歌劇『ボリスゴドゥノフ』の梗概（三幕歌劇）」『音楽』第10巻第9号（大正8年9月）,44-46頁。

■オードラン, エドモンAudran, Edmond (1840-1901)

大田黒元雄「マスコットを観て」『音楽』第7巻第4号（大正5年4月）,47-48頁。

■チャイコフスキー, ピョートルTchaikovsky, Pyotr (1840-93)

女子研究科生「チャイコフスキー（一）」『音楽』第5巻第6号（大正3年6月）,33-35頁。

女子研究科「チャイコフスキー（二）」『音楽』第5巻第7号（大正3年7月）,83-86頁。

女子研究科「チャイコフスキー（三）」『音楽』第5巻第8号（大正3年8月）,42-46頁。

田中久子等「チャイコフスキー（四）」『音楽』第5巻第11号（大正3年11月）,61-63頁。

研究科女生「チャイコフスキー（五）」『音楽』第6巻第1号（大正4年1月）,61-64頁。

研究科女生「チャイコフスキー（一）[ママ]」『音楽』第6巻第2号（大正4年2月）,72-74頁。

研究科女生「チャイコフスキー（七）」『音楽』第6巻第3号（大正4年3月）,5-6頁。

研究科女生「チャイコフスキー（八）」『音楽』第6巻第4号（大正4年4月）,16-18頁。

研究科女生「チャイコフスキー（九）」『音楽』第6巻第5号（大正4年5月）,13-14頁。

研究科女生「チャイコフスキー（十）」『音楽』第6巻第6号（大正4年6月）,16-18頁。

研究科女生「チャイコフスキー（十一）」『音楽』第6巻第7号（大正4年7月）,39-41頁。

研究科女生「チャイコフスキー（十二）」『音楽』第6巻第8号（大正4年8月）,35-37頁。

研究科女生「チャイコフスキー（十三）」『音楽』第6巻第9号（大正4年9月）,22-24頁。

研究科女生「チャイコフスキー（十四）」『音楽』第6巻第10号（大正4年10月）,22-23頁。

研究科女生「チャイコフスキー（十五）」『音楽』第6巻第12号（大正4年12月）,44-46頁。

研究科女生「チャイコフスキー（十六）」『音楽』第7巻第1号（大正5年1月）,33-35頁。

研究科女生「チャイコフスキー（十七）」『音楽』第7巻第2号（大正5年2月）,41-43頁。

研究科女生「チャイコフスキー（十八）」『音楽』第7巻第3号（大正5年3月）,57-59頁。

研究科女生「チャイコフスキー（十九）」『音楽』第7巻第4号（大正5年4月）,68-70頁。

研究科女生「チャイコフスキー（二十）」『音楽』第7巻第5号（大正5年5月）,58-59頁。

鈴木采子「チャイコフスキー（二十一）」『音楽』第7巻第7号（大正5年7月）,43-44頁。

「チャイコフスキーの手簡（一）」牛山充 [訳]『音楽』第9巻第8号（大正7年8月）,16-36頁。

「チャイコフスキーの手簡（二）」牛山充 [訳]『音楽』第9巻第9号（大正7年9月）,37-48頁。

「チャイコフスキーの手簡（三）」牛山充 [訳]『音楽』第9巻第10号（大正7年10月）,32-45頁。

「チャイコフスキーの手簡（四）」牛山充 [訳]『音楽』第9巻第11号（大正7年11月）,37-52頁。

「チャイコフスキーの手簡（五）」牛山充 [訳]『音楽』

第10巻第1号（大正8年1月）,49-58頁./「チャイコフスキーの手簡（六）」牛山充〔訳〕
『音楽』第10巻第2号（大正8年2月）,19-35頁.

■マスネ, ジュールMassenet, Jules (1842-1912)

牛山充「JULES ÉMILE FREDÉRIC MASSENET——マスネーの歌劇物語」『音楽』
第3巻第10号（大正元年10月）,13-26頁.

牛山充「グリーヒとガーデとシュポーアとマッスネー」『音楽』第3巻第12号（大正元
年12月）,26-38頁.

耕霞郎「話の種（六）」『音楽』第3巻第11号（大正元年11月）,24-25頁.⁽¹⁰⁾

■グリーグ, エドヴァルドGrieg, Edvard (1843-1907)

野々花生「エドヴァード、グリーヒ」『音楽』第3巻第12号（大正元年12月）,9-17頁.

牛山充「グリーヒとガーデとシュポーアとマッスネー」『音楽』第3巻第12号（大正元
年12月）,26-38頁.

愛子「エドヴァールドグリーヒの幼時」『音楽』第4巻第12号（大正2年12月）,38-39頁.

前田春声「グリーグの歌謡」『音楽』第12巻第3号（大正10年3月）,1-11頁.

■リムスキー=コルサコフ, ニコライRimsky-Korsakov, Nikolay (1844-1908)

倉開二六「歌劇『ブスコフの娘』」『音楽』第6巻第2号（大正4年2月）,52-56頁.

エルレン ディーデベール「歌劇『消えて失せにしキテシュの町と乙女テウロニア』—
—莫斯科楽信」『音楽』第7巻第9号（大正5年9月）,90-94頁.

■エルガー, エドワードElgar, Edward (1857-1934)

ダニエル グレゴリー メースン「英吉利の一大音楽家」牛山充〔訳〕『音楽』第8巻第5
号（大正6年5月）,40-50頁.⁽¹¹⁾

■イザイ, ウジェーヌYsaÿe, Eugène (1858-1931)

マーテンズ「ヴァイオリン熟達法」牛山充〔訳〕『音楽』第11巻第8号（大正9年8月）,1-7頁./

マーテンズ「ヴァイオリン熟達の要具——イザイ談」牛山充〔訳〕『音楽』第11巻第
11号（大正9年11月）,5-10頁.

■プッチーニ, ジャコモPuccini, Giacomo (1858-1924)

牛山充「名人名曲（二）プッチーニの『マダム、バターフライ』」『音楽』第3巻第10号（大
正元年10月）,32-44頁.

「マダム、バターフライ」柴田知常訳『音楽』第3巻第10号（大正元年10月）,45-54頁.

■パデレフスキ, イグナツィ・ヤンPaderewski, Ignacy Jan (1860-1941)

「パデレフスキ——シマンズ」半田良平訳『音楽』第6巻第7号（大正4年7月）,9-14頁.

牛山充「パデレフスキの戦争観と波蘭土救恤運動」『音楽』第6巻第7号（大正4年
7月）,33-38頁.

猪瀬久三「パデレフスキの成功の秘訣」『音楽』第6巻第8号（大正4年8月）,13-21頁.

イワノフスキー「波蘭土大統領としてのパデレフスキ」YK訳『音楽』第3号（大
正14年3月）,64-73頁.

■マクダウェル, エドワード MacDowell, Edward (1860-1908)

牛山充「マクダエルの音楽の旋律性——ヘンリー・テー・フィンクのマクダエル論より」『音楽』第6巻第8号(大正4年8月),11-13頁.

牛山充「エドワード・マクダエル」『音楽』第6巻第8号(大正4年8月),27-34頁.

■レフラー, チャールズ・マーティン Loeffler, Charles Martin (1861-1935)

ローレンス・ギルマン「チャールズ・マルティン・レーフラー——今日のアメリカの有する世界的作曲家」中根弘[訳]『音楽』第8巻第11号(大正6年11月),20-26頁.

■ドビュッシー, クロード Debussy, Claude (1862-1918)

大田黒元雄「デビュシイ研究——近代楽の作家、三」『音楽』第5巻第10号(大正3年10月),47-50頁.

大田黒元雄「デビュシイと我々」『音楽』第6巻第6号(大正4年6月),6-7頁.

ロマン・ローラン「クロード・デビュシイ」狩野真一[訳]『音楽』第7巻第10号(大正5年10月),38-47頁.

山田耕作「『スク [スクは小文字] リアピン [ンは小文字] とディウビウツスィーの夕] を聴く」『音楽』第8巻第1号(大正6年1月),56-64頁.

■マスカーニ, ピエートロ Mascagni, Pietro (1863-1945)

牛山充「歌劇物語 五、『カヴル [ルは小文字] レリーア ルスティカーナ』(一幕物)——マスカーニ作」『音楽』第5巻第8号(大正3年8月),改69-改84頁.

■シュトラウス, リヒャルト Strauss, Richard (1864-1949)

田村寛貞「近代音楽とリヒャルト、シュトラウス (三)」『音楽』第3巻第8号(明治45年[大正元年]8月),17-18頁./田村寛貞「近代音楽とリヒャルト・シュトラウス (四)」『音楽』第3巻第11号(大正元年11月),3-4頁./田村寛貞「近代音楽とリヒャルト・シュトラウス (五)」『音楽』第3巻第12号(大正元年12月),17-18頁./田村寛貞「近代音楽とリヒャルト、シュトラウス (六)」『音楽』第4巻第1号(大正2年1月),18-19頁./田村寛貞「近代音楽とリヒャルト・シュトラウス (七)」『音楽』第4巻第2号(大正2年2月),14-15頁./田村寛貞「近代音楽とリヒャルト・シュトラウス (八)」『音楽』第4巻第3号(大正2年3月),44-45頁.

牛山充「『アリアドーネ アウフ ナキソス』」『音楽』第4巻第2号(大正2年2月),16-23頁.
「リヒャルトシュトラウス解説——ゲオルグ、グレエネル『シュトラウスの歌劇』序文の訳」秦豊吉[訳]『音楽』第4巻第3号(大正2年3月),46-50頁.

秦豊吉「歌劇『グントラム』研究」『音楽』第4巻第4号(大正2年4月),10-12頁.

倉橋二六「シュトラウス論」『音楽』第5巻第12号(大正3年12月),33-36頁.

秦豊吉「歌劇『サロメ』略解」『音楽』第5巻第12号(大正3年12月),36-43頁.

倉橋二六「楽劇『サロメ』」『音楽』第5巻第12号(大正3年12月),43-48頁.

「リヒャルトシュトラウスの室楽——在伯林 フランツ ドゥビッツキー」弘田竜太郎抄訳『音楽』第5巻第12号(大正3年12月),48-65頁.

「合唱曲作家としてのリヒャルトシュトラウス——エミールテイロ」犬井英夫[訳]『音楽』第5巻第12号(大正3年12月),66-74頁.

「『アルゾー シュプラーハ ツァラトウーストラ』(作品第三十)——U. Steinitzer: R. Strauss 抄訳」井上はる・花島秀[訳]『音楽』第5巻第12号(大正3年12月),75-77頁.

「英雄の生涯(作品第四十)——U. Steinitzer: R. Strauss 抄訳」広田ちづゑ・小野みつ・鈴木采[訳]『音楽』第5巻第12号(大正3年12月),77-79頁.

「パレストリーナ及びリヒャルトシュトラウス参考書」『音楽』第5巻第12号(大正3年12月),103-104頁.

■グラズノフ, アレクサンドルGlazunov, Aleksandr (1865-1936)

相沢晃「露国作曲家ア・ク・グラズノフの近況に就て」『音楽』第13巻第4号(大正11年4月),9-11頁.

■シベリウス, ジャンSibelius, Jean (1865-1957)

大田黒元雄「シベリウスの歌」『音楽』第7巻第5号(大正5年5月),36-37頁.

■ペーテション=ベルイェル, ヴィルヘルムPeterson-Berger, Wilhelm (1867-1942)

ペーターソン・ベルゲル「ワーグナーの楽劇に於ける人生問題」二見孝平[訳]『音楽』第10巻第12号(大正8年12月),1-15頁.

■ゴッドフスキー, レオポルドGodowsky, Leopold (1870-1938)

レオポルドゴッドフスキ「パブロカザルスの芸術」牛山充[訳]『音楽』第10巻第4号(大正8年4月),27-28頁.

牛山充「レオポルドゴッドフスキー」『音楽』第13巻第11号(大正11年11月),15-18頁.

牛山充「ゴッドフスキーを聴く」『音楽』第13巻第12号(大正11年12月),6-10頁.

■スペンディアロフ, アレクサンドルSpendiarov, Aleksandr (1871-1928)

「新進二露西亜作家——エル[ルは小文字]レンフォンティーデベール」桑ヶ原四賀[訳]『音楽』第5巻第8号(大正3年8月),62-65頁.⁽¹²⁾

■スクリャービン, アレクサンドルSkryabin, Aleksandr (1872-1915)

大田黒元雄「近代楽と其の作家」『音楽』第5巻第5号(大正3年5月),48-52頁.⁽¹³⁾

牛山充「独逸人の目に映ぜしスクリアビン」『音楽』第6巻第9号(大正4年9月),37-42頁.

斎藤佳三「我が愛するスクリヤビンへ」『音楽』第7巻第4号(大正5年4月),77-78頁.

イーグルフィールドハル「スクリアビンのピアノ曲研究」野村光訳『音楽』第7巻第12号(大正5年12月),2-25頁.

山田耕作「『スク[スクは小文字]リアビン[ンは小文字]とディウビウツスイーの夕]を聴く」『音楽』第8巻第1号(大正6年1月),56-64頁.

■レーガー, マックスReger, Max (1873-1916)

モーティマーウキルソン「マックスレーガー」夏雲居[訳]『音楽』第7巻第9号(大正5年9月),39-44頁.

■クライスラー, フリッツKreisler, Fritz (1875-1962)

猪瀬久三「フリッツ クライスラー」『音楽』第6巻第9号（大正4年9月）,43-46頁.

■カザルス, パブロCasals, Pablo (1876-1973)

レオポルドゴッドフスキ「パブロ カザルスの芸術」牛山充[訳]『音楽』第10巻第4号（大正8年4月）,27-28頁.

■スコット, シリルScott, Cyril (1879-1970)

シリルスコット「モオダニズムの哲学」高橋均訳『音楽』第12巻第8号（大正10年8月）,1-7頁./ [シリルスコット]「モダニズムの哲学（続）」高橋均[訳]『音楽』第12巻第10号（大正10年10月）,24-29頁./ スイリルスコット「モダニズムの哲学（三）」高橋均[訳]『音楽』第12巻第11号（大正10年11月）,1-5頁.

シリルスコット「音楽の作曲と解釈に於ける見えざる感化力」高橋均訳『音楽』第12巻第12号（大正10年12月）,8-15頁.

イーグルフィールドハル「シリルスコット評伝の序文」高橋均訳『音楽』第13巻第1号（大正11年1月）,8-12頁./ [イーグルフィールドハル]「シリルスコット評伝」川村信義・大久保明ほか[訳]『音楽』第13巻第2号（大正11年2月）,9-19頁./ [イーグルフィールドハル]「シリルスコット評伝」川村信義・大久保明ほか[訳]『音楽』第13巻第4号（大正11年4月）,1-8頁.

【注】

- (1) 紙数の関係から、一部の作曲家（記事数の少ない人物）に関する記事は、ここには収録せず、別の機会に扱うこととする。
- (2) 13巻12号までは復刻版（DVD版,不二出版刊）が刊行されており、当該部分の調査にあたってはこれを用いた。
- (3) ヴァーグナーの特集号（第4巻第5号）が発行されている。
- (4) ここに採録したもの以外に、第9巻第5号から第11巻第8号にかけて、小泉治による「泰西名曲五百番詳解」と題された記事が断続的に掲載されている。ひとりの作曲家の作品のみを対象とするものも含まれるが、多数の作曲家の作品を扱った回も多く、タイトルにも被伝者名が現れないため、採録しなかった。
- (5) 連載の第三回。「第二章 パレストリナ」の小見出しがある。
- (6) ベートーヴェン作品を集めた演奏会の曲目解説。
- (7) 第3巻第3号（明治45年3月）に同著者による「ショパン研究」が掲載されている。
- (8) 《幻想即興曲》作品66、《子守歌》作品57の解説。
- (9) 「第六章 ルービンシュタイン先生の教へ方」の小見出しがある。
- (10) 「十五 マッスナーの逸話のくさぐさ」の小見出しがある。
- (11) エルガーを主題とした記事。
- (12) ウラディーミル・レビコフRebikov、スペンディアロフを主題とした記事。
- (13) スクリャーピンを主題とした記事。

【参考文献など（著者アルファベット順）】

- 井上和男 編 2009.『クラシック音楽作品名辞典 第3版』東京:三省堂.
皓星社.「雑誌記事索引集成データベース」（有料データベース,2018年5月7日最終アクセス）.
松村洋一郎 2016.「明治・大正期の雑誌（音楽誌を除く）における西洋クラシック音楽の作曲

家に関する伝記情報 その1」『国立音楽大学研究紀要』第50集,219-228頁.

松村洋一郎 2017a.「明治期の音楽雑誌における西洋クラシック音楽の作曲家に関する記事目録」『国立音楽大学研究紀要』第51集,225-236頁.

松村洋一郎 2017b.「明治・大正期の雑誌（音楽誌を除く）における西洋クラシック音楽の作曲家に関する伝記情報（その2）記事目録と分析」『音楽研究 国立音楽大学大学院研究年報』第29集,33-49頁.

松村洋一郎 2018a.「大正期の音楽誌における西洋クラシック音楽の作曲家に関する記事目録（その1）」『実践女子大学短期大学部紀要』第39号,139-156頁.

松村洋一郎 2018b.「紹介 東京藝術大学附属図書館監修『戦前期レコード音楽雑誌記事索引』」『音楽学』第63巻2号,159-160頁.

日伊協会 編 1991.『大正一昭和25年期における日伊交流:文献目録』東京:イタリア書房.